

学校目標		重点目標							
1 学校におけるあらゆる教育活動を通して、社会的資質の向上、キャリア能力の育成、個性の伸張を図り、真に豊かな教養と実践力を持つ社会人の育成を目指す。 2 学力を保証し、人間的成長を保証し、進路を保証する高校を目指す。		1 専門分野を学ぶ意欲の醸成と基礎学力の定着 2 豊かな心から生まれるビジネスマナーの育成 3 地域社会を愛し活躍できる人づくり進路保証							
		今年度の重点目標							
		① いじめ・暴力のない「安心・安全」な学校をつくります。 ② 身だしなみを整え、あいさつと清掃を進んで行う生徒を育てます。 ③ 授業を大切に、生徒の基礎力と専門性を伸ばします。 ④ 地域と連携し、地域に貢献することができる人材づくりを進めます。 ⑤ 生徒に、見通しを持たせ、わかるように伝え、共感的に関わるように努めます。							
総合評価	[成果と課題]		[改善策・向上策]						
	・生活指導係を中心に、毎朝の遅刻指導・服装指導により多くの生徒が社会性を身に付けつつある。改善の遅い一部の生徒への指導が課題である。 ・すべての生徒が、自ら学び自ら行動できるように、更なる指導体制の充実と研究努力が必要不可欠である。現在も継続して取り組み中である。 ・SPH指定3年目となり、生徒・教職員も昨年度の経験を生かし、より充実した取り組みを行うことができた。商業科と服飾科のコラボレーションについても道筋がついてきている。		※左記に対する記述が、次年度の目標・課題となる。 ・生徒指導の対象となる生徒が固定化されてきており、担任・学年と連携し、遅刻や服装の指導、学習活動への取り組みの改善指導を粘り強く行っていくことが必要である。 ・次年度はSPHの指定がなくなるため、指定終了後も、生徒が主体的に学習活動が行えるよう、指導内容の研究を行っていく必要がある。また、諏訪タウンは商業科と服飾科および普通科も含めた、チーム諏訪実としての校内体制の構築が不可欠である。						
領域	対象	評価項目(具体的活動目標)	評価の観点	成果と課題	達成度		改善策・向上策		
教育活動	I 生徒指導 生活指導係	1 社会的資質・規範意識の向上	・安心・安全な生活環境の整理。特に、いじめ・暴力の未然防止と、慎重・厳然な対応	・年2回のアンケート調査、面談、日ごとの観察等により状況把握をしているが、いじめ要素を把握できない現状あり。	A	B	C	D	・安心・安全を脅かす状況についてはすぐに情報を共有し、早期解決を目指す。人間関係の把握方法について研究。
			・交通安全意識の向上、交通事故への事前指導	・掲示、呼びかけ、立ち番指導、警察・安協との連携活動を通じ、近隣からの苦情はほとんどない状況。		○			・命に係わることの自覚を促し、安全意識の向上を継続的に行う。交通弱者への配慮を促す。
			・法律・校則を遵守する意識の向上、規律と秩序ある生活態度の育成	・SNSの利用において、法令違反やモラル欠如が多数発生。制服指導が難航。夏休み以降は現金盗難が多くなった。			○		・全校生徒を対象にSNSの利用について学ぶ場を設定。業者の制服着こなし講座を実施する。
			・マナー向上の促進、節度ある学校生活と地域からの信頼の構築	・短スカートについて強い苦情あり。言動が悪いことについての苦情があった。授業妨害・暴言に対する指導を行った。				○	・キャロトスカート、ボロシャツ、新スラックスの検討。学校生活における暴言を見逃さず、必要な指導を行う。
			・挨拶・身だしなみ・時間を守る指導の重点化、全職員による同一歩調の指導	・元氣な挨拶は地域から高評価。頭髪指導は概ね順調。遅刻数が減少しない。			○		・職員の積極的挨拶の励行。校友会との連携。学期ごと統一指導の確認をする。ノーチャイムデー検討?
			・所有物の管理意識の向上	・自己所有物の管理・整頓状況に課題が残る。ロッカー施錠率が低下傾向。				○	・自己責任意識を高めるよう呼びかけ。1学年は施錠徹底の再始動を開始する。教室の整理整頓を校友会と連携して実現していく。
	教育相談	2 健全育成	・人権を守る土壌の育成、他者への配慮ができる生徒の育成	・他者への配慮に欠けた言動があり、不安・混乱を招く事例があった。他者への配慮の重要性について呼びかけていく。			○		・道徳心の植え付け、迷惑行為への職員の毅然とした態度が一層求められる。平和人権教育係とも連携して推進する。
			・生徒との対話の尊重、問題行動の未然防止・早期解決	・気になる生徒には早めに声掛けをしている状況である。			○		・今後も日ごろからコミュニケーションをとり、未然防止・早期解決を目指す。
			・生徒・保護者の心情・背景を踏まえた適切な問題行動への対処	・生徒・保護者の気持ちも踏まえながら指導を進めた。			○		・弁明の機会や背景の把握を怠らず、意思の疎通を図り指導の効果を上げる。
			・指導の定着を図る事後指導	・指導後も継続指導をした。			○		・事後指導は同様に続けていく。
			・家庭・生徒会活動との連携による、指導効果の向上	・家庭の理解・協力を得て指導できた。生徒会活動との連携には課題が残る。				○	・連絡・連携不足を解消し、教育活動の充実を図る必要がある。
			・アルバイトへの対処の推進、高校生としての自覚と規則正しい学校生活への指導	・学業優先の意識が薄い。金銭の管理・使用の不安。夏季休業前にアルバイト諸注意講座を実施した。				○	・アルバイトは本校の教育活動に大きな影響を及ぼしているため対策が急務である。
人権係	3 相談と支援	・校内チーム支援の推進・協力	・校内チーム支援の一環として会を開いた。			○		・引き続き校内におけるチームの支援の推進を行いたい。	
		・いじめや不登校への予防と対応 ・特別支援教育の充実	・不登校傾向の生徒に関して、教頭・担任・学年と連携し、本人保護者と面談を重ね、またカウンセリングを実施した。			○		・困っている生徒の状況を早めに把握し各担任・分掌・学年会と協力連携をはかっていきたい。	
		・校外関係機関との連携	・校外の関係機関と連携し生徒対応をした。			○		・11月には職員研修を計画をした。	
保健係	4 人権意識と仲間づくり	・人権意識に基づく学級経営 ・人権感覚の定着と向上	・人権啓発週間に合わせ、図書館に関連するコーナーを設けた。 ・1学年では、松代大本営見学の事前学習として、学年集会で教員による講演会を行った。 ・2学年は、沖縄修学旅行の事前学習として、映画「さつきとひびの歌」を鑑賞をし、戦争や平和に関する理解を深めた。 ・全校生徒を対象とした、憲法・人権に関する講演会を行い、感想文を書かせた。			○		・他の行事・LHRとの兼ね合いになって選択肢は限られてしまうが、映画鑑賞・講演会いずれにせよ、なるべく暑すぎたり寒すぎたりしない時期を設定する(11月下旬は寒すぎた)。 ・平和人権学習の費用として、毎年学年で600円(参考:業者による映画上映の一人当たり料金を計上していた)を計上していただくよう、お願いしていきたい。	
		5 健康・安全教育	・健康・安全教育の充実 ・生徒及び職員の健康支援 ・環境衛生の促進	・保健だよりや各行事を通して個別に、または全体に対して支援をおこなった。 ・保健委員会の生徒の係活動としてトイレ・流し等の見回り・整美をおこなった。			○		・様々な行事や季節の変化を考慮し、健康管理について指導したり、個々に配慮できるように、引き続き支援を続けていく。 ・生徒の保健意識を調査し、生徒の実情に合わせた支援ができるようにしていく。

領域	対象	評価項目(具体的活動目標)	評価の観点	成果と課題	達成度				改善策・向上策						
					A	B	C	D							
・ 整美係 ・ 校友会係	6 校内外の美化の推進	・ 進んで清掃に取り組む意識の構築 ・ 校内清掃徹底のための職員の監督・指導 ・ ゴミ分別の徹底 ・ 整美委員の自発的取り組みへの支援	・ 先生方には清掃分担場所の監督・指導をよくしていただいている。まだまだ職員の力によるところが大きい。 ・ ゴミ分別の意識はあるので、処理方法の確立をしたい。	○				・ 清掃に取り組むための継続的な指導。 ・ ゴミステーションの当番活動など、整美委員の活動を活性化することができた。 ・ 処理方法を確立し、職員生徒への分別の徹底をお願いする。							
									7 自主活動の促進 校友会活動の充実	・ リーダーの育成と自主的で組織的な活動 ・ 委員会活動の活性化 ・ 校友会行事・文化祭の質的向上	・ 後期役員より、新しく「本部会」を設けた。本部会は執行委員の中で上に立つ者達である。本部会のメンバーが積極的に行動をとり、他の執行委員をまとめ、うまく情報共有などの協力体制をとることができている。	○			・ 本部会を設けたことにより、各行事の準備などもスムーズに進めることができてきている。現在、来年度の行事の内容の見直しなどを行っているが、時間がかかってしまっている。
II 進路指導 ・ 進路指導係 1学年 2学年 3学年	1 進路意識の高揚および早期確立 (1)自己理解を深める (2)職業観を確立する (3)自己の将来を展望する (4)進路を吟味する (5)社会参加を促す	・ 進路講演会、校内外ガイダンス・説明会、個人面談を通じ、学年に応じた進路意識の確立 1年生 進路意識の高揚および情報収集 キャリアデザインに向けた自己理解 ミニメッセ、インターンシップによる地域産業理解 2年生 進路の方向性の決定 インターンシップの活用 オープンキャンパスの活用 諏訪園工業メッセへの参加	・ 生き方を考えさせることを狙いとして校外(社会)から学ぶ機会を設定し、大学生生活体験、ミニメッセ、経営者懇談会、インターンシップ等をSPH学習と連携して取り組んだ。それぞれの生徒アンケートから前向きな記述も想定以上に多数見られ、進路選定にあたっての基礎固めができた生徒も少なくないと思える。来年度に向けて具体化させる支援が必要となる。 ・ 1年次の取組をベースに進路選定を具体的に考えさせることを狙いとして大学生生活体験、諏訪園工業メッセへの参加、オープンキャンパス参加への促進、経営者インターンシップ、進路ガイダンス等をSPH学習と連携して取り組んだ。地域理解から自己の将来を想像する生徒の様子も見られ具体的な相談に来る生徒も増加している。先輩方の実績から公務員・看護への特別講座に参加する生徒も増加傾向にある。	○			・ キャリアデザインの養成として取り組んでいる様々な活動について、その意義や目的を理解させ参加させることで、より高い効果が期待できる。事前指導、事後指導の充実を図る必要がある。 ・ 進学の在り方が大きく変わろうとしている。生徒にその変化を認識させること、その上で自己の夢や希望の実現を目指す進路先の選定をさせる必要がある。指定校推薦に頼らず進学するという挑戦心の養成と学びの実績作りがこれからの進学には求められると考えている。 ・ 現在の経済状況のおかげで就職希望者が内定をいただけていると考えている。決して企業が求めているだけの実力を有しているわけではない。コミュニケーション力、思考力、判断力、表現力、行動力等の育成に努め、採用したい人材とどのような経済状況であろうと思ってもらえる生徒の育成を目指したい。								
								2 進路保証	・ 個人の興味、能力、希望に応じた進路選択と実現 3年生 本人および保護者の納得した進路選択(進路希望とその実現)	・ 全員の生徒と面談を行いながら、本人・保護者の納得する進路選択をすすめる。実現に向けた支援を担任と協力して行った。自ら企業を選定して連絡を取り応募し内定をいただいたという事例もあつた。挑戦したいという強い意欲を持った就職活動はこれからも促進していきたい。	○			・ 1・2年次のキャリアデザイン学習での学びの成果(自己理解)を具体的な進路選定に結び付けようとする意識をどのように養成するかが課題であると考えられる。入れそなうという意識から入りたいたいという意識に変換させるための指導が必要になると考えている。	
	III 学習指導 ・ 教育課程・学習指導委員会 ・ 学習係 1学年 2学年 3学年	1 21世紀型学力の養成 教育課程の検証 新しく改訂されて2年目となる新教育課程の成果と課題の検証	・ 科目指導法の研究と実践 ・ 学習理解度の把握と定着への継続的指導	・ SPH指定最終年度として、全国産業教育フェア、SPH研究発表報告会において取り組みを発表	○			・ 新学習指導料要領の改訂に向け、教育課程の検討をしていく。							
2 意欲・関心の喚起と観点別評価									・ シラバスの検証と授業改善 ・ 観点別評価の実践研究 ・ 授業態度、授業に臨む姿勢の指導	・ 授業アンケートをもとに学習内容や指導法の検討	○			・ 授業アンケートを引き続き行い、改善点を研究し、授業のさらなる充実を図っていく。	
															3 基礎学力の定着

領域	対象	評価項目(具体的活動目標)	評価の観点	成果と課題	達成度				改善策・向上策
					A	B	C	D	
教育活動	IV 専門科 商業科 会計情報科 服飾科	1 専門教育の改善・充実	<ul style="list-style-type: none"> 専門科目の学習目的理解と意欲の喚起 進路希望に即した学習構成と学習支援 	<商業・会計情報科> <ul style="list-style-type: none"> 一方的な説明だけの授業ではなく、実習やグループワークも取り入れて生徒が主体的に学ぶことができるようになってきている。 生徒の興味・関心、進路希望に合わせて選択講座を展開している。(商業科) 簿記と情報の高度な資格が取得できるように指導している。(会計情報科) 		○			<商業・会計情報科> <ul style="list-style-type: none"> 科目担当者が相談し合いながら授業を行うことによって、生徒の意欲を引き出すようにしていく。
				<服飾科> <ul style="list-style-type: none"> 第10回学習成果発表会を実施した。展示と課題研究作品、SPHの取り組みにおけるステージ発表の二部構成。地域連携事業についても展示発表した。 社会人講師、学科研修や行事、校外コンクールへの応募を通して学習内容の充実を図った。 		○		<服飾科> <ul style="list-style-type: none"> 生徒が意欲的に学習へ取り組み、計画的に授業が進むように、指導方法の見直しをすすめていく。 学習内容が確実に定着し、目標が達成できるように、個に応じた指導をしていく。 	
		2 資格取得の促進	<ul style="list-style-type: none"> 進路実現に向けた受験指導 	<商業・会計情報科> <ul style="list-style-type: none"> 進路実現に向けた資格の意義を説明し、放課後の補習を該当者全員に行っている。 		○			<商業・会計情報科> <ul style="list-style-type: none"> 個人の能力に合わせたきめ細かな指導をしていくように心がける。(商業科) 目的意識を明確に持たせることによって生徒の意欲を引き出し、学習に取り組ませるようにする。(会計情報科)
				<服飾科> <ul style="list-style-type: none"> 各種検定に積極的に取り組んでいる。補習や対策講座を設けて支援をした。色彩検定2級合格などの成果として現れている。 		○		<服飾科> <ul style="list-style-type: none"> 検定取得につながるよう引き続き支援していく。 	
		3 地域との連携	<ul style="list-style-type: none"> 各種取り組みの継続と発展 諏訪地域の文化・伝統をビジネスに活かす授業 	<商業・会計情報科> <ul style="list-style-type: none"> 10月20・21日に諏実タウンを地域と連携しながら実施しており、地域に定着してきている。 諏実タウンの中でSPHの発表を行う。 		○			<商業・会計情報科> <ul style="list-style-type: none"> より来場者が増えるように広報方法を考えていく。 ビジネスに活かすために、より企業と協力していくようにする。
				<服飾科> <ul style="list-style-type: none"> 諏実タウンに服飾科として始めて参加した。参加の方法や行事に向けての準備方法など検討しなければいけない課題が多く見つかった。 シルクを使った作品について信州総文祭以降も様々な場面で発表・展示をした。 		○		<服飾科> <ul style="list-style-type: none"> 地域との連携を図りながら、機会をとらえて取り組みを継続していく。 地域での取り組みの一つである諏実タウンの参加とその内容について早い段階から計画を進める。 	
	V SPH	1 SPH活動の企画・運営	<ul style="list-style-type: none"> 各担当との連絡調整 	<ul style="list-style-type: none"> SPH運営委員会を必要に応じて開くことができる。 		○			<ul style="list-style-type: none"> 担当を決めて、報告会等に向けて動いている。
		2 地域との連携	<ul style="list-style-type: none"> 地域文化・伝統に関する講演会 地域課題についての発表会 	<ul style="list-style-type: none"> 1年生で講演会を計画的に行うことができる。 諏実タウンにおいて文化ビジネス研究の発表を計画している。 		○		<ul style="list-style-type: none"> 来年度以降の講演会についても検討していく。 様々な場面で成果を報告していくようにする。 	
		3 取組内容の発信	<ul style="list-style-type: none"> HPの充実 生徒・保護者への情報発信 	<ul style="list-style-type: none"> facebookでタイムリーな情報発信ができてきている。 SPH通信の発行で、紙媒体によっても生徒・保護者に情報を発信していく。 		○		<ul style="list-style-type: none"> より多くの先生が発信するようにする。 SPH通信の発行頻度を多くする。 	

領域	対象	評価項目(具体的活動目標)	評価の観点	成果と課題	達成度				改善策・向上策	
					A	B	C	D		
学校運営	I 教務係	1 学校活動全般の企画・運営	・ 日常業務運営のための関係部署間の連絡調整及び情報収集	・ 行事の際には関係部署と連絡をとり、日程等の調整を行っている。	○				・ 今後も行事等について活計部署と連絡を取り合い、次年度に向けて改善点を明らかにしていきたい。	
			・ 業務の整理・改善と新規企画 (反省委員会の充実)	・ 1,2学期の反省アンケートを集約し、文化祭と諏訪タウンに関する要望や意見が出され、委員会や教科へ検討を依頼した。 ・ 反省委員会は1月16日に実施。各分掌より提案がなされた。		○			・ 諏訪タウンと文化祭に関しては、委員会や教科の検討を踏まえ、職員会等で意思の統一を行い、次年度の年間行事計画策定につなげていきたい。 ・ 次年度も係への要望を挙げ、各分掌で検討し、より建設的で活発な議論の場になるようにしたい。	
			・ 緊急時等の適切な情報把握と対応 (緊急メールの活用)	・ 7月6日および9月4日の台風接近時にはJRの運行状況や台風情報を収集し、行事の切り上げや授業短縮の措置をとった。 ・ 緊急メールの加入率は昨年に比べ、減少してしまった。		○			・ 緊急時については、引き続きスムーズな対応を行うようにしていきたい。 ・ 担任に加入状況を伝え、未加入の家庭については引き続き加入をお願いしていく。	
			・ 電子化による情報の共有(月曆・施設予約)	・ 月歴や施設予約ともにイントラネット上で確認・予約ができるようになった。		○			・ 運用上の改善などの要望を聞きながら使いやすいものにしていきたい。	
		2 職員研修の充実	・ 研修内容の精選 ・ 研修会の設置と支援	・ 2学期初日に、コンプライアンス研修および本校の課題解決に向けたグループ協議を行った。		○			・ 本校の課題解決に向けたグループ協議を受け、各部署で課題解決に向けた方向性を決めていきたい。	
		3 広報活動の充実 (開かれた学校づくり)	・ 学校案内・学校要覧の発行	・ 昨年に引き続き、中学校での進路説明会に向けて中学生に配布できるように作成した。また、学校要覧についても同時期に作成を完了することができた。		○				・ 次年度以降も同時期に作成し、地区内の全中学生に配布できるようにしたい。また、学校要覧についても同時期の完成を心がけたい。
			・ HPの充実(更新)	・ HPについては情報の速やかな更新と、FBIによりSPH事業の取り組み、教務室ブログにより行事等の様子をアップしている。		○				・ 生徒や保護者、地域の方々に向けて更新の頻度を増やしていきたい。
			・ 保護者等への情報発信	・ PTA総会および参観日の通知等にメールを利用した。また、修学旅行中にも予定の変更等にも利用した。		○				・ 緊急メールを活用し、保護者への周知を増やしていきたいと考えている。
			・ 学校開放事業の周知と充実 (中学生体験入学 (授業公開)	・ 今年度初めて、PTA総会に合わせて授業参観を実施した。保護者の参加は多くなかったが、来校者のアンケートでは好評であった。 ・ 昨年度、中学校より要望があったために公開授業を6月に行った。また、例年通り体験入学を行った。中学校卒業生の減少の影響のためか、例年よりどちらも参加人数は少なかったが、参加者からは好評であった。		○				・ 授業参観の数を増やすため、授業時間とPTA総会の時間を関係部署と調整していきたい。 ・ 公開授業については中学校との連絡会等で要望を聞き、2回行う方向としたい。また、体験入学は例年通り夏期休業の最初の方で体験授業を中心とした内容として続けていきたい。
			II 学校評議員会	1 本校の課題の共有と認識	・ 課題の整理と各分掌への報告	・ 10月の第2回評議員会で様々な視点からご意見を頂き、関係部署で今年度の事業に反映させている。		○		
	III 地域連携 ※商業・服飾以外		1 近隣へのボランティア	・ 通学路を中心としたゴミ拾い等、環境美化の推進	・ 校外清掃時に校舎周辺のゴミ拾い・草取り・側溝清掃を行った。		○			・ 今後も地域への感謝の意識を高め、貢献する活動を継続していく。
		・ 環境美化の推進は校外で行わなかったため、校友会新執行とどのように行なうか考える。					○		・ 委員による活動を行うか、執行として活動を行うか、または校外清掃の分担での対応などを考えたい。	
		・ 交通安全の呼びかけ・電車の乗車マナーの呼びかけ		・ 交通安全モデル校の指定を受け、警察との連携活動を行った。		○			・ 交通安全は定期的に呼びかける。今年度も全職員による指導を予定する。	
				・ 学警連携活動。JR・警察・ボランティア協会と列車バトロール活動実施。		○			・ 交通弱者を守るよう全校集会で呼びかけた。乗車マナーの呼びかけ・通知をした。	
		・ 交通安全の呼びかけは警察と協力し行った。しかし前期に1度だけだったため、定期的に行いたい。				○		・ 交通安全の呼びかけは定期的に実施するのと、駐輪場だけでなく、駅など呼びかける場所を生活委員会と考えたい。		
2 高校大学等との連携		・ 関係大学との研究協議・実践 ・ 授業体験によるインターンシップ	・ 夏休みに体験授業(1日)に11名の1・2年生が参加し、上級学校での学びの楽しさを体験した。3月にも1・2年生を対象で実施を計画している。		○			・ 早期に上級学校での学び方を体験することで進学への意欲の向上または適性な進路選択に結び付けられると考えられる。多くの生徒が参加できる体制を検討したい。		
3 企業との連携		・ インターンシップ等の推進 ・ 採用担当者の講演会 ・ 内定生徒と採用担当者との面談	・ 将来の生き方、適性な進路選択を行う上でインターンシップ等企業と関わる学びの効果が現れている。1年生は経営者との懇談会を行い職業意識が深められた。内定との懇談では、アンケート調査を行い職種ごとに求める人材等のデータを得ることもできた。		○			・ 人材育成に対する学校と企業とのミスマッチを抑制するため職員の企業理解が重要であり、懇談会の実施も必要と考える。本校の教育が目指している人材育成を理解していただいた上で協力してもらえる関係づくりを引き続き行いたい。		
4 中学校との連携	・ 他地区を含む中学校訪問等 ・ 面接試験に向けた生徒の状況把握	・ 11月に地区内の中学校を訪問し、入試に関する細かい変更点を伝えたり、意見を聞く機会とした。		○			・ 専門科の授業内容を理解した上で受検をもらえるよう、体験入学や公開授業へ参加していない中学生には授業見学を勧めた。また、生徒の情報を可能な限り交換し、今後の対応に活かしていく。			